

## 平成30年度第2回生野区区政会議 こどもの未来部会

### 1 開催日時

平成30年10月29日（月） 19時00分～20時44分

### 2 開催場所

生野区役所 5階 502・503会議室

### 3 出席者（区政会議委員）11名

岩井委員、松田委員、清水委員、原田委員、村上委員、伊藤（廣）委員、林委員、米川委員、海士委員、高岡委員、新井委員

（その他関係者）3名

緒方区PTA副会長、上出区PTA副会長、鈴木区PTA副会長

（生野区役所）12名

山口生野区長、深見副区長、井平生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、橋本企画総務課長、大川教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、松並安心まちづくり担当課長、山戸地域福祉推進担当課長兼政策推進担当課長、山口保健福祉課長、樋口教育委員会事務局総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、清水区政推進担当課長、杉本企画総務課長代理、戸川企画総務課長代理

### 4 委員に意見を求めた事項

（1）平成30年度生野区の取組み中間振り返り

資料1 平成30年度生野区の取組み：こどもの未来部会（抜粋分）

参考資料1 前回の部会でいただいたご意見・ご提言（要約）と区  
の考え方、対応

### 5 会議内容

#### ○岩井部会長

皆様、こんばんは。今、ご紹介いただきました田島の岩井でございます。それでは部会を始めたいと思います。

平成30年度第2回こどもの未来部会を開催いたします。区政会議は地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが、区役所と一緒に  
なって意見を述べる場となっております。部会で出された意見は全体  
会議において報告し、共有することになります。その中でこの部会は  
生野区のこども・子育ての分野について有効で活発な議論が行われる

ように意見交換を進めてまいりたいと思います。皆様方、よろしくお願ひします。

それでは、まず生野区長の挨拶をお願いします。

○山口生野区長

皆さん、こんばんは。本日はお忙しい中、この夜にお集まりいただき誠にありがとうございます。こどもの未来部会第2回ということで、今年度の取組みの中間振り返りということになります。また、区役所からいろいろ今年度取組んでいることを、説明させていただきます。それに対してご意見をいただければと思っております。

今、私は区担当教育次長でもありますので、各学校回りをしております。生野区、大変学校数が多くて全部で小中学校合わせて28校、それぞれ1校ずつ回って校長先生とお話をして、またこどもたちの様子も見ています。学校ごとに課題もばらばらでありますし、一方同じ、どこも先生が若くなりましたであるとか、忙しいであるとか、保護者の方への対応でちょっと悩んでいることであるとか、そういった全体的な共有できる課題もあるところなんです。そういった私たちが区役所であったり、区担当教育次長としての立場であったりといろいろ、学校とこどもたち、また地域の方が保護者としてであったり、地域活動の中で見ているこどもたち、視点が違うことも多くあるかと思っておりますので、今日はそういったいろいろな視点からの子育てについて、こどもの未来について考える会となればと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

○岩井部会長

はい。ありがとうございます。

それでは議事に入るにあたりまして、これからは学識委員であります大阪市立大学の清水委員に会議の進行をお願いしたいと思います。清水委員、よろしくお願ひします。

○清水委員

部会長からご指名いただきました、大阪市立大学の清水でございます。これから会議の進行をさせていただきますので、皆様よろしくお願ひいたします。

それでは、お手元の会議次第に沿いまして議事1、平成30年度生野区の取組みの中間振り返りについて、区役所からご説明願ひします。

○山戸地域福祉推進担当課長兼政策推進担当課長

こんばんは。地域福祉推進担当課長兼政策推進担当課長の山戸でございます。座らせていただきます。

お手元の右肩に資料1と記載があるものをご覧いただけますでしょうか。

では、説明いたします。「安心してこどもを産み育てることができる環境づくり」についてご説明いたします。平成30年度予算といたし

ましては、総じて161万円を計上しております。具体的な取組みとしては、子育ての孤立を防ぐため子育てをサポートしようと活動している施設や団体、民生委員、主任児童委員さんとともに子育て応援イベント「いくのっ子広場」を今年度は3回、開催いたします。

第1回として7月28日に子ども・子育てプラザでの夏祭りを予定しておりましたが、残念ながら台風のため中止となりました。

2回目は資料にもございますが11月8日に、3回目は来年3月24日に開催を予定しております。

こどもの保護者等へさまざまな情報や交流の場を提供し、地域全体で子育てをサポートできるよう取組みを進めてまいります。

次の、子育てに関する効果的な情報提供でございますが、昨年11月に開設した子ども・子育てプラザの子育て情報サイト「いくのde育への」を活用して地域の子育て支援情報などを発信しています。アクセス数は8月末で4,300件でございます。

区長による「いくみんな子育て通信」も毎月発行しております。情報発信をより強化してまいります。

次のページをお開きください。「生きるチカラを育む絵本プロジェクト」でございますが、平成29年度より当区では3カ月児健診にブックスタート事業を併設することといたしました。絵本サポーターの活動の場をより広げるため、本年9月より1歳6カ月児健診においても絵本の読み聞かせを実施しております。絵本の読み聞かせ体験を通じて豊かな親子関係の構築、読書習慣の定着など夢や希望にあふれたこどもの育成を目指しています。

また、昨年引き続き9月22日に「ワクワクがいっぱい!!絵本PARK inいくの」を開催いたしました。当日は雨模様にも関わらず673人の来場があり、アンケートにご協力いただいた方に、とてもよかった、よかったという高評価をいただきました。今後も広く絵本の良さや読み聞かせの必要性、楽しさを知る機会を提供してまいります。

今年度の業績目標といたしましては、子育て応援イベント「いくのっ子広場」にご参加いただいた方の80%以上の方に効果的な評価をいただけるように取組みを進めます。

また、生野区子育て情報サイト「いくのde育への」のアクセス数を年間6,000件以上を目標といたします。

次のページをお開きください。課題といたしましては、育児不安やストレスを感じた際に、身近に相談できる人がおらず孤立する傾向がございます。今後の方向性といたしましては、引き続き子育て支援機関等と連携協力して、親子で楽しめる子育て応援イベントを開催するとともに生野のまちで子育てをしたくなるような積極的で楽しい情報を発信してまいります。

次のページをお開きください。「ひとりも取りこぼさない支援を」

についてご説明いたします。具体的な取り組みとしまして、本年4月からこどもサポートネット事業をモデル実施しております。学校でのスクリーニング会議において課題を抱えるこども世帯を発見し、教育分野の支援が必要な方には学校が支援を行い、保健福祉分野の支援が必要な方にはこどもサポート推進員が適切な支援先につなぎます。具体的には5月下旬よりスクリーニング会議において課題を抱える児童、生徒にどのような支援が行えるか検討し、課題の解消に向けて取り組んでいます。

また児童虐待の防止に向け、要保護児童対策地域協議会会議などを開催して、関係機関や各種支援機関と連携を強化し、情報共有を進め、虐待の早期発見、早期対応に努めております。

次のページをお開きください。また、生活のさまざまな困りごとを抱えた方に対しましては、生活困窮者自立支援相談窓口である「くらしの相談窓口いくの」による各種相談、就労支援を行い、地域ネットワーク、関係機関等と連携し、課題が複雑、困難化する前に自立できるよう支援しております。

さらに社会的養護を要するこどもが1人でも多く家庭と同様の養育がなされるよう、各種イベントや研修会において里親制度の普及啓発に努めております。

来年1月22日から25日の4日間、生野区役所1階のいくみんの庭において里親パネル展の開催を予定しております。1人でも多くの方にご来場いただけるよう広報に努めてまいります。業績目標といたしましては、こどもの虐待や高齢者虐待などの専門家、支援機関、学校や保育園が参加したワークショップを年2回以上開催することを目標といたします。

次のページをお開きください。課題についてでございますが、区内の人口は減少傾向にあるとともに少子高齢化、核家族化が急速に進行しており、真に支援が必要な方への確実な対応が求められています。今後の方向性としましては支援を必要とする全ての人々が、一人一人が社会とつながりを持ちながら健やかに暮らすことができるように、引き続き取り組んでまいります。私からの説明は以上でございます。

○井平生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

皆さん、こんばんは。生野区地域活性化担当課長の井平です。

それでは私から資料7番、次世代の学校づくりから説明させていただきます。着座で失礼いたします。

まず資料番号7です。次世代の学校づくり（学校配置の見直し）に関する取り組みについてでございます。西部地域の学校再編につきましては、昨年の区政会議でも説明させていただきましたが、まず議論のたたき台となる学校整備計画の素案を行政で作成し、それをもとに学

校設置協議会準備会において保護者、地域の皆様からご意見をいただき、その意見を踏まえた学校整備計画案を作成し、その後に説明会を開催、皆さんにご説明した上で学校再編についてのご理解とご協力を得られる状況になりましたら、学校設置協議会を設置し詳細事項を協議いただくという進め方に改めております。

平成30年度は、対象となる4中学校区で学校設置協議会を設置することを目標に掲げているところでございます。

資料をめくっていただきまして、資料の8番、進捗状況といたしましては、まず生野中学校区及び田島中学校区におきまして学校設置協議会準備会、並びに将来の学校を考える会でいただきましたご意見等も踏まえまして、学校整備計画案を作成し本年9月に各中学校区で、2回ずつ説明会を開催したところでございます。現在、各小中学校のPTAや地域まちづくり協議会に説明、お願いを申し上げまして、学校設置協議会の設置に向けて取り組んでいるところでございます。

また、勝山・鶴橋中学校区、大池中学校区につきましては学校設置協議会の前段階である学校設置協議会準備会がまだ立ち上がっていない状況でございます。勝山・鶴橋中学校区はまず桃谷中学校の開校に向けて協議を進めているところでございまして、また大池中学校区は舍利寺小学校が生野中学校と大池中学校に校区が分かれることから、生野中学校区の動向も踏まえて進める必要がございます。

現在、両校とも早期の準備会設置に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして資料の9、生野の教育の実現に関する取組みでございます。生野区では子どもの生活に関する実態調査や全国学力学習状況調査の結果を踏まえ、こどもたちに学習機会を提供し、さらに自ら学ぶ力を身につけてもらうために、生きるチカラを育む課外授業を大池中学校でモデル的に大池みらい塾として実施しております。比較的年齢の近い大学生を講師等とし、学習習慣の定着や基礎学力の向上のための授業のほか、進路選択などの悩み相談などを設け、将来の夢や進路について生徒が具体的に考えるよう支援いたします。実績としまして、8月31日時点で41名が受講しております。

また毎月の受講料につきましては、本市の塾代助成事業を活用することで保護者の所得によっては実質無料で受講できるようにし、子育て世帯の経済的負担の軽減を図っております。

資料をめくっていただきまして、資料10です。業績目標としましては、事業実施の前後に受講生へアンケートを行い、家庭学習を全くしないと回答している者の割合を半減させることを目標としております。今年度は、前年度に引き続き中学校1校にてモデル実施をしておりますが、平成31年度以降モデル校での効果検証を踏まえ、改善・拡充を検討してまいります。

続きまして資料11、民間事業者等を活用した課外授業「いくの塾」でございます。この事業は生野区に在住する市立中学校に在籍する生徒を対象に実施しております。30年度は生野中学校、巽中学校、東生野中学校の3校を活用して実施しております、8月31日現在の受講生は生野中学校7名、巽中学校29名、東生野中学校10名となっております。

資料をめくっていただきまして、資料12、業績目標としましては事業実施前後にアンケートを行いまして、授業の中でわからないことをそのままにしておくか答える生徒を半減させることを目標としております。課題としましては、先ほど申し上げたように受講生が少なく定員に達していない教室があること。それと、先ほど説明しました大池みらい塾もこのいくの塾も大阪市の塾代助成事業を活用することにより実質無料で受講することが可能ですが、その案内方法についても検討する必要があると考えております。より多くの方に受講していただけるように、いくの塾の周知だけでなく塾代助成事業もあわせて周知するなど、周知活動の強化を図ってまいりたいと考えております。

次に資料13、学び支援事業でございます。本事業は小学生の学力向上を目指し、児童の学力状況の把握と自主学習習慣の確立を目的に外部の模擬検定等を学校が活用できる機会を提供するもので、平成30年度は16校で実施を予定しており、8月末現在で2校が実施済みとなっております。業績目標といたしましては、事業実施後のアンケートにおいて学習意欲を問う設問について、肯定的な回答をする児童の割合を70%以上としております。課題と今後の方向性でございますが、1学年ではなく、2学年で実施し、経年経過を見られるようにしたいとの意見をいただいております、来年度に向けては枠を拡大して模擬検定が実施できるように検討してまいります。

また、学校の実情等により実施していない学校に対しましては学校と話をしながら活用できる方法についても検討してまいります。

次に資料をめくっていただきまして、資料14、こどもの貧困対策関連の取り組みとしまして今年度から新たに立ち上げました、生きるチカラ学びサポート事業でございます。この事業はこどもたちが自分の将来像などを考えるきっかけづくりを通して、自尊感情や自ら頑張る力を身につけることを目的に各学校でのキャリア教育、性・生教育の取り組みを支援する「生きるチカラ学びサポーター」の登録制度をつくり、学校の要請に応じて派遣を行うものです。

また、児童生徒向けの授業のみではなく、保護者、教員向けの研修にも講師を派遣し、家庭教育の意識向上や教員のスキルアップを目指してまいります。今年度はこれまで、1学期に2中学校への講師を派遣しております、中学生が赤ちゃんと触れ合う授業や助産師による命の授業を実施するとともに、スマートフォンの利用について考える

保護者、教員向けのシンポジウムを開催してまいりました。

資料15です。実績目標としましては事業終了時のアンケートで、人の役に立つ人間になりたいと思いませんかという設問について、否定的な回答をした受講者の割合を8%未満にすることとしております。今後はさらに取組みが広がるよう学校や運営アドバイザーとして参画している有識者との間で講師情報の共有を進め、講師登録の増加を目指してまいります。

続きまして資料をめくっていただきまして資料16、学校・教育コミュニティ支援の、小中学校交流かけはし事業でございます。この事業は小学生が中学校へスムーズに移行でき、中学校生活を楽しく過ごせるように各中学校区における小中連携の取組みを区が支援することで進学先の中学校の生徒や、同じ中学校へ進学する他校の児童との交流促進を図るものです。今年度も部活動体験、授業体験、芸術鑑賞などの内容で全中学校区での実施を予定しているほか、英語の授業により年間を通して小中、小小交流する取組みや中学校区での教職員の合同研修を実施しているところでございます。

来年度につきましては、現在モデル校区にて実施しています年間を通じた交流を他の中学校にも広げるほか、年間を通じた小学校間連携をさらに進めることで授業の充実を図ってまいります。

次に資料をめくっていただきまして、資料18、学校支援ボランティア人材バンクでございます。区内の市立小学校中学校において、児童生徒の見守りや授業や校外活動等の支援などを行うボランティアを登録し、学校と情報共有、学校への情報提供を行い必要に応じて活動を行ってもらうものです。今年度7月にボランティア募集の1回目を行い、ボランティア登録者に必要な基礎研修を実施し、学校へ登録者の情報を提供してまいりました。8月末現在、45名の登録があり、5校11名に活動をしていただいております。学校とボランティアのマッチングがよりうまくできるようにするため、登録者の人材情報の提供を毎月実施してまいりたいと考えております。課題といたしましては、より多くのボランティアに活動してもらうためには新たなボランティア人材の確保が重要で、引き続き募集方法の検討が必要でございまして、大学等への募集ポスターの掲示依頼や、新たに教員採用試験での加点制度の対象になっていることなど、制度の有利点などもあわせて周知するなど人材確保に努めてまいります。

続きまして、資料をめくっていただきまして資料20、ニア・イズ・ベターに基づく分権型教育行政の効果的な推進についてでございます。これまで教育委員会は市立学校園500校以上を統一的に管理してまいりましたが、学校や地域の実情に応じた取組みがより行いやすくなるようにするために学校長の裁量を拡大するほか、保護者や学校、地域により近い場所にいる区長を区担当教育次長と位置づけまして、保護

者、学校のニーズを吸い上げ地域の实情や課題に合った取組みを進めるよう平成29年度から分権型教育行政の取組みを進めております。生野区におきましても、区内の学校長と意見交換を行う場として教育行政連絡会を小中学校それぞれ、学期ごとに年3回開催するとともに、区内の学校、幼稚園、保育園が集まって情報交換を行う場として教育保育連絡会を年2回開催しております。

また、冒頭にもご説明しましたとおり、保護者、区民の皆さんのご意見をお聞きし区における教育の取組みに反映していくために、このこども未来部会を保護者、区民等の参画のための会議と位置づけましてご意見をお伺いしているところでございます。引き続き保護者、地域、学校の声をお聞きしながら、学校地域の实情に応じた教育が行われ、教育内容が充実したと感じていただけるよう取組みを進めてまいります。

次に資料21、英語でプログラミング体験事業でございます。この事業は小学校5、6年生と中学生1年から3年を対象に、ものを自由に操る基礎を学ぶためのプログラミングと英語を融合させた体験事業で、7月31日から8月4日まで連続講座で実施いたしました。ネイティブ講師による授業を通じてプログラミングで使用するロボットの動きを英語で学び、またチーム対抗で英語の質問回答を行うなど、楽しみながら英語を学びました。参加者は小学生、中学生を合わせて46名でした。

次のページ、資料22です。業績目標としましてはアンケートを実施しまして、今回体験したことは今後積極的に活かせると思えますかという設問に対して肯定的な回答をした割合を70%以上と設定しております。今回は98%の肯定的な回答をいただいております。課題と今後の方向性でございますが、プログラミングと英語という講座内容から対象者を小学5年から中学3年までに限定し、講座の習熟度を上げるために5日間の連続講座という形で実施しましたが、応募者が募集定員60名に対して46名と少ない結果となっております。一方、今年度から小学校で英語教育の義務化がスタートし、また平成32年度からは小学校でプログラミング教育の必修化が行われることから、平成31年度に向けては事業の廃止を検討し、英語につきましては今後かけはし授業等における中学校区での連携の取組みにおいて、実施を拡大するなど検討を行ってまいりたいと考えております。私からは以上です。

○松並安心まちづくり担当課長

安心まちづくり担当課長の松並です。資料23、ここから説明させていただきます。座らせていただきます。

生涯学習の推進ということで、生涯学習推進員とも連携いたしまして、生野区では19の小学校に生涯学習ルームを開設し、区民の生涯学



習活動を支援するとともに、学びの成果を地域行事等で還元できるように支援しております。下にあります写真は、3月に行われました区の生涯学習ルームフェスティバルの様子でございます。今年度につきましても、来年3月3日に同じく区民センターにて生涯学習フェスティバルを開催する予定でございます。

24のスライドをご覧ください。業績目標につきましては区の生涯学習事業で学んだ内容を地域行事等で活かせる機会があると答えた事業参加者の割合を60%以上としております。現在のところ平成30年12月にアンケートを実施する予定になっておりますので、その後対応策を検討していきたいと考えております。資料は以上でございます。

○清水委員

はい。ただいまの説明について委員の皆様、何かご意見やご質問などはございませんでしょうか。なお、発言いただく際には挙手の上、お名前を述べていただきますようご協力をお願いいたします。新井委員、お願いいたします。

○新井委員

一つご質問させていただきたいんですけれども、次世代の学校づくり、生野の教育の実現という部分で、生きるチカラを育む課外授業のところで区の予算額が大池中学は73万2,000円となっていて、次のページにあります民間事業等を活用した課外授業で「いくの塾」は17万6,000円ということですが、この金額の差はどういったところにあるのか、ご説明いただきたいですけれども。

○清水委員

説明をお願いいたします。

○井平生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

地域活性化担当課長、井平です。今の質問ですけれども、生きるチカラを育む課外授業につきましては大学生等による相談事業を事業の中に盛り込んでおりまして、その委託事業という形になっておりますので、年間その分の委託事業費が発生しております。いくの塾につきましては、課外授業だけの形になりますので現状、必要な経費については事業者選定にかかる選定委員の経費だけという形で、通常経費につきましても受講するお金は子どもたちが塾代助成などを活用して月1万円で受講していただき、光熱水費等につきましては実施の業者が支払いますので、いくの塾につきましても負担がない状況であります。以上でございます。

○清水委員

よろしいですか。はい。そのほかにご質問やご意見など。はい、お願いいたします。

○村上委員

巽の村上です。ちょっと聞きたいのはこどもの貧困って、貧困家庭って言われますやんか、こどもの貧困とは何をもって貧困というのかな、その一つ、定義があるんですか、それと今現在のこどもの貧困率は、大阪市でよかったらその辺のパーセントもちょっと教えていただきたいんですけれど。

○清水委員

はい。

○山口生野区長

こどもの貧困は正確な基準は資料が無いのですが、基準収入よりも低い世帯を、相対的貧困という言い方をします。要は世間一般の人が平均的に得ている収入よりもさらに、かなり下で生活している人たちのことを言います。今ちょっと正確な数字が出てこないのですけれども、大体、最初に調査したころには16.何%かが、いわゆる普通に生活できるレベルの家計、収入がないということで、大阪市は中でも貧困率が高いことにはなっています。ちょっとだけ、調査が数年前にあった分と、昨年度もう一回調査があって、そこで出た数字では若干回復していたんですけれども、これは景気が多少よくなって雇用が回復したおかげと言われていて、まだまだ見た目では経済的にしんどいという方、一見わからない、スマホも持っているし、最低限、服装とかでわからないけれども実は家計が苦しいという家庭は7人に1人ぐらいと言われていています。

○清水委員

よろしいでしょうか。ほかにございませんでしょうか。ちょっと私からも、今のこどもの貧困に関して9ページのところですかね。生きるチカラを育む課外授業が行われていまして、41名の受講のお子さんがあったというご報告を聞きましたが、評価について、10ページでは家庭学習をしている割合が評価の基準になっているのですけれども、もちろん貧困に伴う学力低下ということで、その後の進学とかも制限、進学の選択肢がだんだん学力に伴って狭まってきて就職にも問題につながるということで、学力が問題になるんですけれども、貧困対策として行われる塾に集まるお子さんたちは自分たちを、要するに貧困であるというある種のラベルが貼られてしまうんですけれども、そこで学力だけの問題ではなくていろいろな生活面の悩みとか学校で言えないこととか、そういった面でのフォローというか、塾ではこの、放課後教えてもらうことは学習の支援なんだけれども、学習以外に出てくる課題について見守ってくれる人とか、集まったところでの声かけを工夫してるとか、学習支援だけじゃなくて、話しやすい雰囲気ができるようにちょっとイベントを行うとか、そういった工夫とかがこの場で行われてるのかどうかについて、ちょっと情報をいただければと思うんですけれども。

- 井平生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

地域活性化担当課長、井平です。この生きるチカラを育む課外授業につきましては、大学生等を講師としまして月1回は最低、相談の時間を設けさせていただいてます。その中で授業は毎回必ずやるんですけども、そのほかにそういった進路に対する不安ですとか、受験への不安、将来に対する不安等といった受講されてる中学生のそういう相談を受けて、その大学生が継続的に来てますので、相談じゃないときについてもそういったところもフォローしながら、継続的に見ていく形の取り組みにしておるところでございます。

- 清水委員

はい。ありがとうございます。何かほかにもご意見やご質問はございませんでしょうか。海士委員。

- 海士委員

生野南の海士と言います。ボランティアさんとかが大学生の方、家庭の兄弟が少ないので、お兄ちゃんとかお姉ちゃんに相談できないことを相談するという感じではすごくいいと思うんですけども、そのような感じでしょうか。それとも、教員を目指してる方が自分のスキルのために、こどもが今どういうことを考えているのかを知るためのボランティアなのか、最後の辺にはそういうことも書いてあるんですけども、そういったすごい悩みを大学生の方が聞けるぐらいの悩み、申し訳ないです、ちょっとうまく言えないですけども。クラブの顧問の先生もまた別で募集して外部からするとか、そういうことも聞いてますので、学校の先生がどういう感じの役割をしていくのかなというのが、公立学校についてどういうような教育を、生野区でもいいですけども、先生はどういう感じでやっていかれるのかな。外部の塾の先生に学校を見せて、放課後に見てもらう授業とか、いろいろ書いてあるんですけども、学校の先生はどういった役割で、どういった教育を公立学校としてやっていくのかをちょっと聞きたいかなと思うんですけども。

- 清水委員

2つ質問があったかなという感じですけど、11ページのことについて、学習支援はボランティアの大学生が行っているが、その大学生は相談にきちんと乗れるだけの資質があるというか、ものなのかどうかと、要するに貧困であるというこどもの状況を理解して適切な相談・助言ができるものなのかどうかでよろしかったですかね、一つは。

- 海士委員

そうですね。これから先生になる方がするのかという。

- 清水委員

学生さんの背景として教育者を目指してる学生さんなのか、それと

もアルバイトみたいな感覚でやっている人なのか。

○海士委員

就職の糧になるような感じでボランティアをしているのかという。

○清水委員

どういう背景で学生がやっているのかを把握しているのかどうかと、クラブ活動やこういった課外授業を外部委託というか、しているわけだけれども、そうすると本来の中学校の教員としてどこまで責任を持ってやっているのかどうかを、区としてどうお考えになっているのかという質問でよろしいですか。

○海士委員

そんな感じですか。

○井平生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

地域活性化担当課長の井平です。ただいまの質問ですけれども、まずこの生きるチカラを育む課外授業につきましては大学生等により、その相談についてもあわせて委託しておりまして、委託先の事業者、業者が大学生と契約している形になりますので、ボランティアかどうか、全くのボランティアではないと思うんですけれども、塾で教えてる大学生とか、その中では教員を目指してる者もいてると思うんですけれども、そこまでちょっと把握はできてない状況です。ただ、どこまで相談に乗れるかですけれども、まず大学生っていう自分たちから少し近い年代のお兄さんお姉さんに、自分の悩みを直接相談して、実際にその受験のときにどうやったんかとか、将来に悩みがあったけどどうなったんかとか、そういったことを相談をした上で、そういった不安を取り除きながら将来の自分の姿を大学生のお兄さん、お姉さんを見ることでちょっと想像しながらそういったところを目指していけるような形の取組みでございまして、今おっしゃったように大学生の背景まではつかんでおらないですけれども、できるだけ素朴な質問・悩みについて相談に乗れるような形で対応していただければということを取組んでいるところでございます。

あと2点目の学校の状況ですけれども、この生きるチカラを育む課外授業やいくの塾につきましても学校の活動のほか、課外のところで生野区が支援できるようなことにならないかということで、取り組んでおります。学校につきましては当然、学校でやるべきことは授業も含めて、生徒の指導も含めて対応しておりますので、今、教職員の負担軽減等々がございまして、今ご質問がありました部活動のところでもありますとか、そういった軽減のところはいろいろ考えながら、学校とそういった活動支援の人とかの連携はしながら進めておりますが、学校の教育内容につきましては何か方向が変わるとか、そういったことではないと考えております。生野区としましては、その学校が教育活

動をされている、教育活動の外ですね、放課後ですとかそういったところで子どもたちの支援であるとか、そういったことができないかということで取組みを進めているところでございます。以上でございます。

○清水委員

ありがとうございました。いかがでしょうか。そのほか皆様、ご質問やご意見など。地域で子どもたちの様子をご覧になってる方々がいらっしゃると思いますけれども、このような生野区取組みは、すぐ地域の子どもたちの生活に反映されるわけではないですけども、何か地域で見かけるお子さんを通して、関わってるお子さんを通して何か気づかれることとか、お母さんたちの様子を通して気づかれることとか何かございませんでしょうか。新井委員、お願いします。

○新井委員

次世代の学校づくりということで、生野区西部地域学校再編整備計画の推進ですけれども、これもずっと話し合われてるんですけどもまだ反対があったり、中学校の再編は進んでるんですけども、まだその他が、いまいち進んでない状態で、このままずるとこの状態を続けていくのもちょっと、今、学校に通っている子どもたちのことを考えると本当にこの状態がいいのかどうかは、不安をあおるようなことになりまして、学校設置協議会準備会もまだ設置されてない状況の地区もありますし、それを設置して、するのかもしれないのかを新たに検討するよりも、しますということで準備会なりを持たれるほうが、準備会は持つけれども、するのかもしれないのかをまた問うと、絶対地域とか反対とかは出ますよね。やっぱり自分の地域とまた、いろいろな方が思いも違うし、地域や保護者の意見もやっぱりそれぞれあって当然だと思うし、だから賛成、反対ということもあって当然だとは思いますが、この話し合いが始まって本当に、ちょっとうまく言えないですけど、長くかかってこのまま、またするのかもしれないのかという、その振り出しに戻るようなことにはならないように、本当にきちんと決めていただきたいなという思いがあります。

○清水委員

はい。

○海士委員

学校再編のことにつきまして今お話があったんですけども、やっぱりその地域、今ここに出てる再編にははっきり言って反対です。少な過ぎるし、地域のよさを無視したような感じになってると思います。

思うのは、普通で言えば遠くから学校に来てる人もいてるし、生野は学校が多いって、先ほども区長さんが言ってたみたいな感じはわかるんですけども、やっぱり前もちょっと言ったんですけども、守るべき地域は神社を中心に守って来られた先人さんたちもおられることだ

し、その辺はよく考えてしないと、ただ中学校の校区だけで再編するのは、私はちょっと反対です。はっきり言って反対します。それで疲弊するところもありますし、生野は在日の方で、今働きに来てる外国の方、すごく多いです。よく見ます。台湾語か中国語か、ベトナム語かはちょっとわからないですけど、もう五、六人、すごくしゃべって、自転車でわいわいしながら通るところも、この感じですごく増えたなは思いますし、今増えるのと、昔の在日の方とちょっと違うと思うんです。今はその地域でお祭りもあって神社もあってそこにみんな来ていただいて、日本の文化をわかってもらうように持っていかないと、その辺は元に住んでる地域の人もやっぱり来ないことになると思いますし、それを中心にするのが学校だと思imasるので、そういった地域を守る学校再編であってほしいと思います。ただ、みんな残せとは言わないですけど地域を疲弊させるような、予算だけの、何か人件費みたいな感じの再編はやっぱり、ちょっと反対かなと思います。

○清水委員

学校再編について準備会までも設置できないような状況になっていて、そこに子どもたちも不安というか、どうなるのかというところで、もうちょっと積極的に進めていただければというご意見と、もう1つは慎重に地域のことを理解していただきながら進めてほしいという2つのご意見をいただきましたけれども、これに関して区役所の方、ちょっとご意見を、ご説明お願いいたします。

○井平生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

地域活性化担当課長、井平でございます。先ほどもご説明させていただいたとおり、生野区の西部地域の学校再編整備計画につきましては現在の生野区の小学校、ほとんどのクラスが単学級というような状況になっている中で、その状況についてはかなり課題が多い中で、各学年2クラス以上の学校をつくっていききたいということで再編に取り組んでおります。この再編につきましては、今もご意見がございましたが、生野区役所・教育委員会としては必ず学校の再編につきましては進めていかなければならないと考えております。ただ、当然学校ですので、保護者の方、地域の方、ご理解・ご協力をいただけない状態であれば学校も成り立っていかないのは当然のことでございますので、しっかりと理解していただきながら進めていくということで、この間学校設置協議会準備会等をはじめ、いろいろな説明会等をさせていただいてご理解いただけるように取り組んできているところでございます。当然、今も反対のご意見をいただいておりますが、いろいろな課題、解決していなければならないところについては当然でございますので、地域の活性化であるとか、学校がなくなった後の避難所の問題でありますとか、少し距離が遠くなることに対する通学路の問題といった課

題につきましては、今後設置させていただきたいと思っております学校設置協議会の中でもしっかりと保護者の方、地域の方のご意見を伺いながら、しっかりと解決した上で新しい学校になるように取り組んでいかないとあかんと考えております。学校設置協議会の準備会が立ち上がってないところにつきましては、桃谷中学校の関係ですとか、その他の校区の状況を見ておりましたので、今現在立ち上がっておりませんが、その部分につきましては早急にこれから立ち上げに向けて取り組んでいきたいと考えておりますので、当然、反対賛成のご意見もあると思いますが、行政としましては子どもたちのために少しでも早く環境の改善ということで、再編に取り組んでいきたいと考えておりますので、いろいろなご意見をいただきながらそれに対して対策を考えていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○清水委員

というご説明でしたけれども、ほかにご意見やご質問などございませんでしょうか。はい。松田委員、お願いします。

○松田委員

松田です。主任児童委員をしておりまして、4ページのこどもサポートネット事業の件ですが。私の場合、北巽小学校、巽中学校の地域ですが、スクリーニング会議で出たこどもの情報などは逐一、校長先生から私は聞いてるんですが、ほかの学校でこれぐらいたくさん会議を開催されてると書かれてるんですけど、そういう学校と主任児童委員の連携がとれているんでしょうか。

○山口保健福祉課長

保険福祉課長、山口です。こどもサポートネットについてお答えいたします。

こどもサポートネットですけれども、一応この、4ページの右側の図にありますように、学校で教師の気づきによって、区役所と連携して支援方針を決定した上で、家庭を訪問したり、地域と連携したりしています。もともと学校と民生委員さんや児童委員さんのつながりがあるところは、学校の校長先生から地域の意見を聞いていただいてやっけていただいております。そこにこどもサポートネット推進員が連携して一緒に対応はしております。ただ、まだ、この制度は始まったばかりなので全部が全部、どの地域も民生委員、児童委員さんが全て関わっておられるかといったら地域の事情もあって、そういうのができてない地域はあるんですけども、そういうのも各学校に私どもが働きかけていって、連携して双方で、地域と学校、区役所で連携して課題があるこどもの改善に努めてまいりたいと思っております。全くの新規事業なので、もうちょっとお時間をいただきたいなと思っております。以上です。

○松田委員

何年も前から学校との連携を民生としてやっておりますので、うちの地域だけがたくさんそういうこどもの名前が出てくるわけじゃないと思うので、やっぱりほかの主任児童委員さんからそういう情報がないとよく聞きますし、私も大分前に学校長会へそういう説明をしに行ったこともありますので、区役所からも学校からそういう情報を、ちゃんと守秘義務がありますので、伝えてほしいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

○清水委員

ありがとうございます。地域によって取組み状況が違うことは、始まったばかりの事業であるということもあるんですけども、ただ地域によって違うところでの原因というか、背景というか、何か今、把握しておられるところはあるのでしょうか。

○山口保健福祉課長

保健福祉課長、山口です。把握といいますか学校の校長先生に、最初に私ども職員がいろいろ、推進員とヒアリングに行ったときに、当校はこういう事情ですというお話はお聞きしているんですけども、いろいろと地域に事情がありますので、この場でこれですという言い方はちょっと申し上げにくいんですけども、きっちり連携できてない地域もまだないことはないの、ちょっとその辺はやっぱり学校から、民生委員、児童委員側から、双方から、区役所が間に立って連携して働きかけていけるような形に努めてまいりたいと考えております。

○清水委員

では、そこは区役所さんがご尽力されると今お聞きしたので、よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。まだ、ご発言のない委員。はい、伊藤（廣）委員、お願いします。

○伊藤（廣）委員

すみません。東中川の伊藤（廣）です。

「安心して子どもを産み育てることができる環境づくり」に、2から3ページのところですけれども、こういったイベントはたくさん行われてると思うんです。これは逆に言うたら受け身状態です。ここに書いてあります、子育てのときには、一番孤立するおそれがあり、不安なことでもあるし、こういう孤立化になることによって、ちょっと親御さんがうつなどになるのは避けなきゃならないことだと思うんです。そこで、こういうイベントごとは単発ですよ。継続的に何かできる方法はないだろうかということを考えていただけないかです。例えば、同じ年代のお母さん方が、自分たちで何かをしていこうというような支援をしていただくことは可能でしょうか。

○清水委員



では、今の質問に対してご説明をお願いいたします。

○山口保健福祉課長

保健福祉課長の山口です。継続的にお母さん方が使えるのはまず地域の子育てサロン、民生委員さんや主任児童委員さんが定期的に行っていたら子育てサロンであるとか、北巽にありますけど、子ども・子育てプラザは祝日・月以外はずっとあいてますので、そちらで遊ばれることはできますので、それらの情報を私どもが「いくのde育～の」で、ここでこんなことをやってるよと、最近の若い奥様方はスマホを扱われますのでその「いくのde育～の」を、始めた当初はちょっとしか情報が載ってなかったんですけど、どんどん今広げさせていただいて、今日はこんなことをここでやってるよという情報をたくさん載せさせていただいてますので、情報提供には努めさせていただいております。

○伊藤（廣）委員

ありがとうございます。それで、情報提供だけでそれを自分で取得してるということですよ。それを、もっと巻き込みたいということです。自分の同世代のお母さん同士がもっと横つながりになれば、孤立化することはないだろうなということで、そういうことに対して何か方策は、これはお母さん方の資質に委ねなきゃ仕方ないのかなとは思いますが、そういう何か手助けができませんかということですよ。

○清水委員

いかがでしょう。

○清水区政推進担当課長

区政推進課長清水でございます。現役のお母さん同士の横のつながりをつくっていきけるような支援はないかでございますが、生野区では持続可能なまちづくり事業がございまして、そこに登録されているいくすく子ネクトさん。いわゆる、現役のお母さんたちの集まりがあるんです。本日、委員にお越しいただいている林委員もそのメンバーの一人でございますが、そちらでは、お母さん同士が子どもさんを連れて、またお母さんの学びの機会をたくさんつくっていただいたり、お子さん連れで気軽に参加できるイベントを数多く企画、実行されております。それも、SNSを使って上手に発信されているので、若い世代にも届きやすい情報発信の仕方をしていただいていると思っております。そういった活動を定期的に勉強、学びの機会と参加型のイベントを、どんどん活動機会も増やしていただいておりますので、お母さん同士が参加して、そこで横のつながりをつくって一人、孤独を感じない子育て、支援について今、取り組んでいただいているところでございます。以上です。

○伊藤（廣）委員

ありがとうございます。その情報を私たち、あんまり耳にしなかったので、同じ地域に住みながら、そういうことを知らなかったことは恥ずかしいことだなと思っておりますけれども、それだけまだ周知がされてないのかな、そういう、行政のそういった取組みとこういった民間の方々の取組み、合わせて周知していただければと思っております。よろしく願いいたします。

○清水区政推進担当課長

広報担当としましても、ツイッターでイベントをご紹介するとともに報告として、生野区のブログで活動報告をさせていただいたりしておりますが、今後一層、その部分の周知について努めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

○清水委員

3 ページにある、相談できる相手がなくて孤立化のおそれがあるというところに関しての今後の方向性で、情報発信を行うところについて、もう少しいろいろな工夫をしていただければということです。漠然と情報発信としか書かれてないのですが、そのあたりの工夫、よろしく願いしたいと思っております。

そのほか、お願いいたします。林委員。

○林委員

東中川の林です。先ほど、いくすく子ネクトのことについて触れていただきましたけども、いくすく子ネクトは、生野在住の5人のママで立ち上げた団体で、生野で育児を楽しもうということをモットーに活動しています。私自身、こどもが2人いてるんですけども、ママ友ができるのが保育園とか幼稚園とかへ行ってからなんです。でも、本当にしんどいときって、それまでなんです。乳児を抱えてすごくしんどい思いしてるときにママ友がいなかったです、私は。保育園に行き出してからやっとママ友ができて、そこから初めて子育てプラザとか地域の子育てサロンとかで、ああいう存在も全く知らなかったんです。なので本当にしんどいときにすごく孤立してて、保育園へ行ってママ友ができ出してからそういう情報が入ってきて、うちの子はもう今、中1なので12年前、その赤ちゃんが一番しんどかった時期、今ほどまだそんなにSNSもここまで便利に活用してなかったもので、そのしんどかった時期をもっとこう保育園とかへ行き出す前に、お友達がいたらもうちょっと楽だったのかなあというのがあって、自分みたいにしんどい思いをするママたちを減らしたいということで、いくすく子ネクトという団体をつくってやってるんですけど、主にSNS発信をして、あとイベントをしたり、いろいろな講座とかやってるんですけど、なかなか集客が難しくって参加してくれるママさんもいつも同じ顔ぶれになってしまうんです。なので、もっと周知していきたいなというのが課題ですが、区役所の「いくのd e育～の」のサイトができ

たときはすばらしいと思ったんですが、今、アクセス数を見たらちょっと少ないなと正直、思いまして、昨年12月にオープンして8月末の時点で、1ページを見てしゃべっていますけど、アクセス数が4,300件で、2ページ目業績目標として年間6,000件以上と書かれていますけど、年間6,000件以上ということは月500件ですね。区の情報サイトとしては少ないんじゃないかなと、個人のブログでもアクセス数は結構とれるので、区のサイトにしては発信力が弱いんじゃないかなと、サイトって結局見ようと思って検索する人しか見ないので、結局そういう意識のある人、探してる人にしか届かないというところがあるので、それをその探そうと思ってない人にも届く、こんなのあるんやともっと広めていく必要があるんじゃないかなと思いますけど、そのアクセス数をどうやって伸ばすかは、どのようにされていかれるんでしょうか。

○清水委員

アクセス数を伸ばすためにどのような方策があるかということ。

○山口保健福祉課長

保健福祉課長、山口です。「いくのd e育～の」はできた当初から比べますと、アクセス数は大分増えてきてるんですけど、最近、横置きぐらいになってしまっています。、私どもとしましても、基本的にこのサイトは生野区役所のサイトではなくて、子ども・子育てプラザのサイトになっているので、子ども・子育てプラザが基本はもっと周知していただいているというのが本来のやり方であるんですけども、この「いくのd e育～の」に関しては、山口区長が発案していただいて、私どもからこれをやってくださいとお願いしてるので、区役所も全面的にバックアップしてやっております。今も区役所のホームページを見ていただいたらわかるんですけど、右肩に、自動的に「いくのd e育～の」が順番で出てくるようにもしてありますし、区役所としてはできる限り、ツイッターにも入れたりしております。あとは、その子ども・子育てプラザはあんまりこういう媒体、SNSの取り扱いに慣れてる方が最初全然いらっしゃらなくて、一から始めたこともあって、今年度になってから、大分その扱い方も慣れてきてるのでもうちょっと伸びていくとは思いますが、もうちょっと発信方法を工夫するとともに、子ども・子育てプラザにも、せっかくなつくたサイトなので消極的な方にも届くような方策を考えられるように双方でよく協議してやっていきたいなと思っております。

○清水委員

子ども・子育てプラザさんとのいろいろ協力関係というか、それがポイントだとして説明いただきましたが、いかがでしょうか。

はい、松田委員、お願いします。

○松田委員

情報の周知ですが、SNSもあれですけど、それはそのときに見たらすぐ忘れてしまったり、育児をやってられるお母さんはやっぱり忙しいので忘れてしまったり、その日が過ぎてしまったりすることが多いので、主任児童委員から子育てサロンや、1ページの「いくのっ子広場」などは全部チラシで、ちゃんと1軒ずつ入れてくれてる人もたくさんいてまして、チラシだと冷蔵庫とかに貼ってあって忘れないという話も聞きますので、毎月のサロンも主任児童委員の人が1軒ずつ、林寺なんか特に回ってくださっているんですけど、そうやって知らせてくださいますので、どっちも大事なかなと思いますので、これからもよろしく願いいたします。

○清水委員

紙媒体の宣伝も重要だというご意見ですので、よろしく願いします。そのほか、いかがでしょうか。

○清水区政推進担当課長

失礼いたします。今の紙媒体の子育て支援の情報についてですけれども、広報いくのの5月号で特集ページとして、乳幼児のお子さんを連れて行っていただける子育て支援センターを実際、全ての子育て支援センターを当方で訪問させていただいて、そこで働いていらっしゃる方のお写真ですとか、そこに参加されてる親子の方の写真を入れたものを、できるだけ身近に来やすい場所だなと感じていただけるようなご紹介の仕方をしているものがございます。こちらは特集ページで今もバックナンバーとしてお配りすることもできますので、継続してお子さんがおられる施設などにも置いていただけるように今後もしてまいりたいと思います。またこちらのご紹介も合わせて、継続していろいろやってまいりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○清水委員

ほかにいかが。はい、高岡委員、どうぞ。

○高岡委員

林寺の高岡でございます。今の話で、こちらから出向いて参加する方はいいですけど、こういう話し相手がないとかいう方は自分から積極的に役所で聞いたりやったりすることは苦手かなと思いますので、こどもさんができたときに、よその県ですけども保健師さんとかが巡回で回ってこられて、その家庭の状況で何かいろいろアドバイスとか、兄弟が上にいてたら赤ちゃんよりも上の子を優先にとかいう、いろいろなアドバイスとかをやってくれて、いいなということを知ったことがありますので、スマホやSNSでの交流が苦手な人がいらっしゃると思いますので、最初にこどもさんができたときはその方が参加されるかどうかのチェックぐらいは1回か2回できるような、そんな仕組みもあっていいかなと、私は今お話を聞いてて思いました。

以上です。

○清水委員

おそらく乳児家庭全戸訪問のことかなと思うんですけども、いかがでしょうか。どんなふうに行われているのか、情報があれば教えていただきたいと思います。

○山口保健福祉課長

保健福祉課長の山口です。

妊娠なさったら母子健康手帳を取りに区役所へ来られると思うんですけど、その際には必ず保健師が面接します。その際に何かご入り用ですかというお話もできます。それから、プレママ・プレパパの集いもやっていますので申し込みをしていただいたらというご案内もさせていただいています。それから、35歳以上の妊産婦の方にはアラフォーママの集いというようなご案内もさせていただいています。ただ、生野区以外の区では大阪市乳児全戸訪問事業と連携した事業を区独自予算でやってる区もあるんですけども、生野区はまだそこまでできていない状況ですので、今後よその区のやり方も検討しながら考えていきたいと思っております。

以上です。

○清水委員

はい、まだ全戸訪問事業と連携した事業ができていないというところで、外に出向けない方へのアプローチとしてアウトリーチしていくこともご検討いただければと思います。

はい、そのほかにいかがでしょうか。新井委員。

○新井委員

先ほどの学校再編ですけれども、本当に言っておきたいんですけども、学校は本当に誰のためにあるのか、学校再編は誰のために行うのかを本当にぶれずに考えてほしいと思います。

5ページですけれども、「ひとりも取りこぼさない支援を」というところで、10月は里親月間という、とりあえず読ませていただいたんですけども、本当に里親制度って私も自分の中でもう少しハードルの高いものだと思ってたんですけども、2人目を産むときに何日かは見ていただいたり、病院に通うときとかちょっとしたことも手伝っていただけるということは里親制度の中に入っていると気づかせていただいたので、これはもう少し、もっと広報にも掲載していただいたんですけど、もっと周知していただけるようにいろいろなところで取り上げていただきたいなと思っております。そうすれば、ほんとに子どもを産める環境とか、それこそ子育てに困っている親たちにも少しでも手助けができるような制度じゃないかなと思います。

○清水委員

学校再編についてのご意見と、里親制度についての周知ということ

でご意見をいただきました。

それでは伊藤（廣）委員、お願いします。

○伊藤（廣）委員

学校再編のことですけれども、今、新井委員がおっしゃったように誰のためのことなのかを考えていくといいんですけれども、今は西部地域のみですね。これ、おそらくは近い将来、東部地域もある。今は西部地域のみでいろいろな説明会をなされてて、東部地域の者はお話をお聞きしても何が問題でどういうところが課題を残しているのかがさっぱりわからない、そういう状況です。ですから東部地域でもシミュレーションじゃないですけれども、少しずつ話をしていただければいろいろな意味で区全体で考えられるんじゃないかなというぐあいだと思います。ですから、西部地域もなかなか進んでないようになっていますけれども、東部地域でも少しずつそういう話を進めていただけたらなという具合に思います。

○井平生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

地域活性化担当課長、井平です。ご意見、どうもありがとうございます。ご意見いただきましたように、現在、東部の地域につきましてはなかなかそういったお話とか説明とかできてない状況にございます。西部地域でしっかりと取組んでいくことはやっていく必要がございますが、東部地域につきましてもおっしゃっていただいたように、再編の対象になってくるところもございますので、そのあたりも今後、こういった形でできるのかを内部で検討しながら、そういった形の取組みも進めていくよう考えていきたいと思っております。どうもありがとうございます。

○山口保健福祉課長

保健福祉課長、山口です。

里親制度についてですけれども、当区は今年度、大阪市の中で何区かあるんですけれども、里親広報の重点モデル区になっておりまして、私どもの区長が里親の研修を現在受けておられることもあって、里親の普及啓発に力を入れていこうということで、あらゆる機会、いろいろな区役所が参加できる会議とか区長がしゃべる講演会であるとか、里親の普及啓発を進めております。1月にはパネル展示プラス里親相談会も実施する予定ですので、今後とも里親の普及啓発を進めていって生野区内で里親になっていただける方が増えるように努力していきたいと思っております。

○清水委員

ありがとうございました。それでは、そろそろ時間の関係もありますので、ご質問、ご意見等よろしいでしょうか。

はい、海士委員。

### ○海士委員

やはり問題は、学校再編のことが地域ですごい重しがかかったような感じで皆さん、活動にも、もうなくなってしまうのかなという感じで思うんですけども、区の委員さんが来られて説明されたときに、こどもたちは早く決めてほしいと言ってるとか、そういう言い方をされる委員の方が説明に町会会議へ来たときに、そういう感じで言われたこともあったり、PTAの人は、早く何とか決めてほしいと言ってるので、そういうふうにしてください、みたいなそういう感じを職員の方がそうおっしゃるのがちょっと疑問に思いました。

それと、学校再編はやぶさかではないですけども、ちょっと減らし過ぎではないかなと思います。特に、生野南小学校のことだけ考えるわけにいかないと区長さんがこの間、私が意見を言ったときにおっしゃったんですけども、やっぱりそこで住む人たちが生野小学校がなくなって、林寺小学校がなくなって、その地域が大き過ぎて、そうすると神社を守ってきた人たちとか、それで町会を盛り上げてきた人たちとか、それがまた治安にもつながっていくし、地域の力にもなりますし、またそこに住む外国人の方も一緒にそれを楽しんだり、そういう文化なんだなというところを残していかないと、すごく疲弊していくんじゃないかという不安がすごくありますので、その辺、再編は少子化に伴って仕方がないかなとは思うんですけども、もうちょっとそういったところも考えて再編を進めていただければいいかなと思うんですけども、ぜひもう一度、よく考え直していただいたらいいかなと思うんですけども、よろしく願いいたします。

### ○井平生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

ありがとうございます。地域活性化担当課長、井平でございます。

再編に関しましては、先ほどもお伝えしましたように、こどもたちの教育環境の改善ということで取組んでおります。1学年単学級の状態は課題が大きいということですので、これについては再編ということで取組んでいきたいと考えております。ただ、おっしゃっていますように、地域の活性化・まちづくりも合わせて取組んでいかないといいけない課題であるとは認識しておりますので、学校が再編された後の跡地の活用も含めまして地域が活性化するような取組み、場所になるような形で地域の皆さん、保護者の皆様と意見を交わしながら、そのことにつきましても合わせて取組んでいきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

### ○村上委員

学校再編の件ですけど、我々も、さっき伊藤（廣）委員もおっしゃったように、私は異ですので、そのどこまでいっても対岸の火事です。何が問題があって、何が反対されてるか、我々は全然わからんわけで

すね。断片的にはいろいろと聞こえてきます。大別して、おおむね反対されてる方、地域は何をもって反対とおっしゃってるんですか。いろいろな理由があると思うんです。今、海士委員も地域のこととか、感情的なこともありはったけど。

- 井平生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

地域活性化担当課長、井平です。

地域によって、一概に何がということではないと思いますけども、反対されてる意見の中には、やはり学校がなくなることで地域の活性化といいますか、そういったことが悪くなるというか、地域が寂しくなるんじゃないかということですか、あとは再編によって通学距離が延びることの、登下校への不安であるとかそういったこともありますし、あとは再編によって学校がどうなるのかという具体的なところがわかりにくいとか、それぞれ地域ですとかその個人の方によって、いろいろなご意見がございますので、そういったところを我々としましては、まちづくりの問題でありますとか、活性化の問題、登下校の対策であるとか、新しい学校がどういった形になるかも具体的にできるだけ説明するようにしながら取り組んでいるところではございますが、なかなか全ての皆さんにご理解いただいている状況ではございませんけども、ただ賛成の方もおられるのは事実でして、早くやっていただきたいという声も聞いておりますし、そういったところもしっかり受けとめながら、引き続き進めていきたいと考えております。

- 村上委員

ありがとうございます。

僕個人としましては、反対されてる方の、こどもの登下校の距離が長くなるとかその安全確保とかはわかりますよ。それ以外に、こどもたちがどのような教育環境で、教育を受けさせたらええかということが全然入ってませんわな。本来は、そこを第一に優先事項として考えるべきであって、それと、あとの学校の跡地やとかその活性化とかは切り離して物を考えるべきだと僕は思うんですけど、僕の意見は。

- 井平生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

再編によってどんな学校になるかは、当然2クラスになって、生野区の今、再編においては、中学校区において小中一貫教育を充実していこうということで、ほかの学校でも小中連携等をやっておりますが、そういったところについて小中一貫ということで小学校から中学校への9年間を通じた教育も連携してやりながら、さらにこの再編によってその新しい学校につきましては、それぞれ、これからの検討にもなりますが、英語教育であったりICTといったところの、先進的なところも取り入れながらよいものにしていこうということでお伝えして



いるところではございます。

あと、地域の活性化、まちづくりは当然、再編はこどもたちの教育環境の改善ということでやっておりますが、区役所の取組みとしては、教育環境の改善も含めて、地域のまちづくりにもなりますので、連携した形でやっていく必要はあると考えています。ただ、おっしゃるように学校の再編とまちづくりは、別物というたら別物ですので、それぞれにきっちり今後の検討を進めていきたいと考えます。

○清水委員

皆様、よろしいでしょうか。

それでは意見もいろいろ出していただいたところで、最後に事務局から連絡等、よろしく願いしたいと思います。

○橋本企画総務課長

委員の皆さん、お疲れさまでございました。たくさん意見をいただきまして、有意義なご議論をいただけたと思います。本日いただきましたご意見につきましては、次の全体会で部会として報告をいただくことで、ほかの部会の委員の皆様にも共有していただくことにしたいと考えております。報告内容につきましては、事務局でひとまず整理させていただきまして、部会長や、本日進行を務めていただきました清水委員と調整をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

事務局からの報告は以上でございます。

○清水委員

部会長に渡したいと思います。

○岩井部会長

それでは、本日の会議を踏まえまして、最後に山口区長から一言お願いしたいと思います。

○山口生野区長

皆さん、ご意見ありがとうございました。

特に学校再編につきましては何度も何度も、いろいろな形でお話を差し上げています。一点、やはり単学級の解消は必要性を強く感じているところです。と申しますのも私が学校回りを今しております、何校か小規模校、単学級の学校も回っております。一番感じるのは、教員が本当に若くなって、ある教室だったんですけども、非常に教室環境が荒れている。校長でしたので、教師の力は、学級がうまくいってるかどうかを見るときは教室環境、教室が汚れているとか、整理されているとか、そういったところを見るんですけども、そういったところがこんな少ない人数を教えているだけなのに、何でこんなに行き届いてないんだというところで、大変、懸念というか、教員がどんどん若返ることによって隣のクラスがない、学びの先輩と一緒に同じ学年を見ていないところの懸念が非常に表面化してきたのかなと思

っております。あくまで、こどもの学習環境、学ぶ環境、そしていろいろな人間関係をつくってあげたい、クラスでやり切る環境をということで繰り返しお願い、ほとんどお願いの領域に入っていると思うんですけども、お願いをさせていただいてるところであります。

そして、一番いい状態という仮説を立ててみたんですけども、最もいい状態は今すぐこどもがたくさん増えて、全学年がそれぞれの学校で2学級以上になり、かつ力のある教員がたくさん来ることですけども、そのまちづくりをして子育て世代を増やしたいという思いはものすごく強く持ってまして、そのための空き家対策であったり、シティプロモーションであったり、いろいろなことをやっていますが、それが実現するのにやっぱり時間がかかる、まちは既に疲弊していると思うんです、こどもが減った時点で。だから東側で今のうちからもっと説明を聞きたいというのは非常に大事な視点でして、本来10年前であるとか、十四、五年前、各学校で単学級が出始めたころにもっと対策であるとか真剣に話し合っておけば、今みたいな難しい状況になってなかったのではないかなと思っているんです。あとは、職員が進めたいという声を聞いているのは、私たちが言わなければ、申し訳ないですが、やはり反対の方でありますとか、強い意見をお持ちの方はいろいろな説明会の場でも質問をしっかりとされるんですけども、どうしても思いがあってもとりあえず地域の前ではよう言わんとか、そういった声もすくうのは私たちが、平等性を持ってすくうのが私たちの仕事でもありますので、どうしてもお伝えしなければならぬところがあります。実際、子育て世代の方たちからは、校区割り自体が連合主体となってることにに関してそこにこだわる必要はないんじゃないかと、もつとこどもたちが通いやすい校区に変えたほうがいいんじゃないかという意見もありまして、でも実際にそれをやりますと連合をたくさんに分割しなければならないことになり、今のそれこそ育ててきたコミュニティが難しくなるということで、実際それをやった地域も全国で探せばあると思うんですけども、大変な時間がかかり、また難しくなる。だから今の小学校区、そして中学校区を基本としてより小学校、中学校をつないだ形で、地域にもそのこどもたちが力をつけてしっかり育って帰っていくような、地域のこどもをしっかり地域で育てるといえるのは変わらずに再編ができたらと思っています。

またご意見をいろいろといただいて、それを反映しながらもしっかり説明をして、できれば前向きに進めていきたいと思っています。あとは、いろいろな里親のことでありましたり、ご意見をありがとうございました。しんどいお母さんは、確かにアクセスしにくいところがあります。アウトリーチが必要であったり、また押しかけていたら拒否されるところもあって非常に繊細だ。だから、窓口がたくさんあることが大事だと思っています。私も地域の子育てサロンのボランテ

ィアを、もう4年目に入りますが続けています。そうすると、少しずつ顔を見せてつながってくれるお母さん、ちょっと強く、強くじゃないですけど積極的につながろうとしたら、ちょっと逃げ腰になるお母さん、いろいろな方がいらっしゃいます。地域の子育てサロンもあり子育てプラザもあり、またいくすくさんのような横のつながりもあり、いくのっ子広場があり、民生児童委員の方に声をかけていただく、本当にいろいろな窓口がある、もちろん区役所もですけども、たくさん窓口があってその中で拾っていく、幅広くネットワークを広げていくことがまず大事かなと思っていますので、またそれはそれぞれの活動の中で、地域の中でPTAの方もぜひ、笑顔でいろいろな方とつながっていただければうれしいなと思っています。

今日は、本当にありがとうございました。

○岩井部会長

ありがとうございました。

区長の大変なご意見を聞かさせていただきまして、ありがとうございます。

それで、やっぱりこの区政会議といいますか、生野区の将来についてここに議題がありますが、やはりこの生野区の将来を考えて学校再編をしていただく、なるほど結構なことです。それでしたら、西のほうを重点的にやらんと生野区全体を見て再編をやってもらいたいなと、こう思っております。でないと、西はわいわい言うけれども東は、今もおっしゃったように高みの見物、どうなろうともどうなろうとも、はよ言うと関係ない人たちです。結局、西側が一番関係ありますから、生野区全体の絵を描いてください。そういうことを一つ、区長にお願いして、最後に締めに移りたいと思います。

それで、今日は大変な意見交換、非常によかったと思います。それで、また今後もこういうずっと続いていくと思いますが、また、11月29日木曜日には第2回全体会議の開催が予定されておりますので、今後も活発なご意見をよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、これにて本日のこどもの未来部会を終了いたします。

皆様方、お疲れでございます。ありがとうございました。終わります。